

3 3学年の実践

(1) はじめに

3年生は男子10名、女子7名、計17名である。算数に対する意欲や課題への取り組みが良いが、作業や理解に要する時間に大きな差がみられた。授業の中では自分の考えをもち、「言葉や図などで書く」「グループで話し合う」「発表する」などの場を設定してきた。また、副教材アイテムの基本的な問題は自己解決、発展的な問題はグループで解決し全体で確認して進めてきた。発展的な問題に挑戦し、いろいろな方法を出し合っって考え、解決する楽しさを体感させることは、今後の算数に対する興味や態度、考えようとする意欲を高めるためにも大変重要であると考えた。

(2) 授業の実践例

授業の視点

長方形を使った発展的な問題において、色で識別して種類に気付いたり、それぞれの個数を確かめたりすることは、問題を解決するために有効であろう。また児童は、多くの長方形を見つけることにより、その定義や性質を明確にするであろう。

① 単元名 四角形を調べよう

② 本時の学習

(ア) ねらい


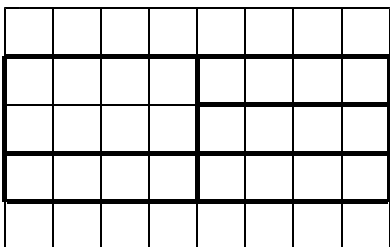
- ・様々な長方形の種類に気付き、それを活用して発展的な問題を解こうとしている。また、長方形の問題解決の方法を、直角三角形にも活用している。


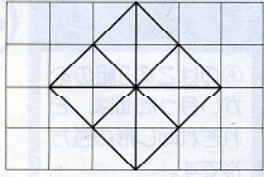

(イ) 評価の視点

【関心・意欲・態度】

- ・長方形・直角三角形の定義を発展的な問題の中で活用し、意欲的に取り組もうとしている。

(ウ) 展開

学習活動	時間	学習活動への支援及び留意点	評価項目
<p>1 既習事項の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長方形の定義を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">4つのかどがみんな直角になっている四角形を長方形といいます。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・正方形の定義を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">4つのかどがみんな直角で、4つのへんの長さがみんな同じになっている四角形を正方形といいます。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形の定義を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">直角のある三角形を、直角三角形といいます。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょう点、辺を確認する。 	5分		<p>・長方形・正方形 直角三角形の定義がわかる。</p> 
<p>2 学習課題をつかむ。</p> <p>右の図の中に、長方形がぜんぶで、何こありますか。</p> <p style="text-align: center;">[]</p>			<p>・既習の長方形の定義を活用して問題を解決しようとしている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 一斉で課題を確認する。 自力解決をする。 長方形の種類について検討する。 グループで解決する。 グループの考えを発表し、全体で検討する。 長方形の個数を求める。 	25分	<ul style="list-style-type: none"> 疑問点を出させる。 思考しやすいような掲示を工夫する。 自力解決の時間をとった上で、グループによる解決の場を設定する。 グループの考えを発表させ、全体で確認する。 種類ごとに、確認していく。 	
<p>②課題2</p> <p>右の図の中に、直角三角形がぜんぶで、 何こありますか。</p> <p>[]</p>			<ul style="list-style-type: none"> 既習の直角三角形の定義を活用して問題を解決している。
<ul style="list-style-type: none"> 一斉で課題を確認する。 グループで解決する。 グループの考えを発表し、全体で検討する。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> 問題を全体で確かめる。 長方形で学習したことを、活用させる。 グループで検討、課題を解決する。 グループの考えを発表させ、全体で確認する。 	
3本時のまとめと、次時の学習内容の流れを知る。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習につながるような、投げかけをする。 	

(3) まとめ

アイテムの発展的な問題を、初めに個で考え次にグループで話し合ったことで、一人一人が課題解決のための手がかりをつかむことができた。また、考えを伝え合うことで集中して取り組めたようである。いろいろな形の長方形を扱うところが難しい問題であるが、長方形の定義や性質がしっかりわかっていることが重要であると感じた。改めて基礎・基本的事項をしっかり理解することの大切さがわかった授業であった。また、日頃あまり自分の考えを発言できなかった児童も、進んで話し合いに参加している場面もみられ、知的好奇心を刺激する課題でもあった。

(4) 今後の課題

アイテムを副教材としたが、初めは子どもたちに戸惑いや難しいという意識が見られた。そこで考える力をつける問題や発展的な問題は、グループ学習を中心に進めることにより抵抗を少なくした。進める中でアイテムの使い方にも慣れ、難しい問題がわかった時の喜びが意欲へとつながっていった。また、試行錯誤しながらアイテムをやる達成感も大きいと感じた。考えるためには時間の確保が重要である。しかし予定時間数では足りなくなってしまうのが現状である。アイテムを授業の中のどの場面で、どのように取り組ませるかという効果的な活用方法の検討が今後の課題である。